

7月の農作物病害虫発生現況

(令和8年7月17日現在) 山口県病害虫防除所

1 巡回調査期間：7月13～15日

2 1か月気象予報（7月16日福岡管区気象台発表）

気温：低い10%、平年並20%、高い70%

降水量：少ない30%、平年並40%、多い30%

日照時間：少ない30%、平年並30%、多い40%

3 発生現況

【イネ】

○いもち病（葉いもち）

発生現況：平年並

ほ場調査：平年並 発生ほ場率11.1%（平年11.5%）、発病株率2.4%（平年3.6%）、発病度0.6（平年0.9）、病斑の最上位葉2.7（平年2.7）

今後の予想：平年並

予想の根拠：現況発生量（±）、気温は高い、降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並（±）

備考：上位葉まで病斑が進展している場合や急性型病斑を認めた場合は、治療効果のある薬剤で直ちに防除する。穂いもちの防除（出穂前防除、穂揃い期防除）を適期に実施する。

○紋枯病

発生現況：平年並

初発生：やや早い 7月13日（平年7月16日）

ほ場調査：平年並 発生ほ場率0%（平年0.7%）、発病株率0%（平年0.1%）、発病度0（平年0.0）

今後の予想：やや多

予想の根拠：現況発生量（±）、初発生はやや早い（+）、気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）

備考：出穂14日前頃の発病株率が15～20%以上の場合に、モンガリット剤やバリダシン剤等で防除を行う。

○ばか苗病

発生現況：平年並

ほ場調査：平年並 発生ほ場率0%（平年0.2%）、発病株率0%（平年0.0%）

○縞葉枯病

発生現況：平年並

初発生：未確認（平年7月27日）

ほ場調査：平年並 発生ほ場率0%（平年0%）、発病株率0%（平年0%）

今後の予想：平年並

予想の根拠：現況発生量（±）、ヒメトビウンカ発生量：やや少（－）

○セジロウンカ

発生現況：平年並

ほ場調査：平年並 発生ほ場率 13.6%（平年 32.7%）、0.3 頭/10 株（平年 5.2 頭/ 10 株）

予察灯誘殺数（5 月 11 日～7 月 14 日、県内 3 か所合計）：やや多 453 頭（平年 256 頭）

今後の予想：平年並

予想の根拠：現況発生量（±）、飛来量（+）、気温は高い（+）

備考：主な飛来日は 6 月 20 日（中飛来）、6 月 25 日（中飛来）、7 月 1 日（中飛来）、7 月 5 日（多飛来）頃。防除適期は 7 月 20 日～7 月 25 日頃。株当たり 50 頭以上（成虫・幼虫）の発生があれば防除を行う。ウンカ類に効果の高い箱施用剤が使用されていないほ場（直播栽培、飼料用米等を含む）では、発生状況をよく確認し、防除の目安を参考に防除を実施する。また、飼料用米では多発する場合があるので注意する。

○トビイロウンカ

発生現況：平年並

ほ場調査：平年並 発生ほ場率 0%（平年 3.3%）、0 頭/ 10 株（平年 0.04 頭/10 株）

予察灯誘殺数（5 月 11 日～7 月 14 日、県内 3 か所合計）：多 19 頭（平年 1.8 頭）

今後の予想：やや多

予想の根拠：現況発生量（±）、飛来量（+）、気温は高い（+）

備考：主な飛来日は 6 月 20 日（少飛来）、7 月 1 日（少飛来）、7 月 5 日（多飛来）頃。防除適期は 7 月 23～28 日頃。防除の目安は 7 月下旬～8 月上旬で 100 株当たり 20 頭以上。

令和 8 年 7 月 13 日付け令和 8 年度農作物病害虫発生予察注意報第 3 号を参照

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22328.html>

○ヒメトビウンカ

発生現況：やや少

ほ場調査：やや少 発生ほ場率 9.9%（平年 24.3%）、0.1 頭/10 株（平年 0.6 頭/10 株）

今後の予想：やや少

予想の根拠：現況発生量（－）、気温は高い（+）

○ツマグロヨコバイ（萎縮病）

発生現況：やや少（ツマグロヨコバイ）

ほ場調査：萎縮病 未確認、ツマグロヨコバイ やや少 発生ほ場率 7.4%（平年 19.0%）、0.1 頭/10 株（平年 0.5 頭/10 株）

今後の予想：やや少

予想の根拠：現況発生量（－）、気温は高い（+）

○コブノメイガ

発生現況：やや多

ほ場調査：やや多 発生ほ場率 33.3% (平年 10.6%)、被害葉率 0.2% (平年 0.1%)、成虫払い出し虫数 0.1 頭/20 回 (平年 0.1 頭/20 回)

今後の予想：やや多

予想の根拠：現況発生量 (+)、気温は高い (+)、飛来状況 (-)

備考：主な飛来日は、6月22日(少飛来)、7月5日(少飛来)頃。7月24日～26日頃、7月31日～8月3日頃が成虫の主要発生時期となる。成虫の払い出し調査で1㎡当たり5頭以上であれば粒剤は直ちに、液・粉剤では1週間後に防除を行う。特に葉色の濃いイネでは被害を受けやすいので注意する。

○ニカメイガ

発生現況：平年並

ほ場調査：平年並 発生ほ場率 0% (平年 0%) 被害株率 0% (平年 0%)

予察灯誘殺数(6月15日～7月14日、県内3か所合計)：平年並 0頭(平年 0頭)

今後の予想：平年並

予想の根拠：現況発生量(±)、気温は高い、降水量はほぼ平年並(+)

備考：防除時期：第2世代若齢幼虫期(平年8月中旬)

○フタオビコヤガ

発生現況：多

ほ場調査：多 発生ほ場率 1.2% (平年 0.4%)、0.0 頭/株 (平年 0.0 頭/株)

予察灯誘殺数(6月15日～7月14日、県内3か所合計)：やや多 5頭(平年 3.3頭)

今後の予想：多

予想の根拠：現況発生量(+)、気温は高い(+)

備考：葉色の濃いイネで被害が出やすいので、窒素過多を避ける。

○イネツトムシ

発生現況：平年並

ほ場調査：平年並 発生ほ場率 1.2% (平年 1.0%)、つと数 0.0 包/25 株 (平年 0.0 包/25 株)

今後の予想：平年並

予想の根拠：現況発生量(±)、気温は高い(+)

備考：防除時期：若齢幼虫最盛期(7月中旬～下旬)

7月中下旬に葉色が濃く軟弱な生育のほ場で被害を受けやすい。

○イネクロカメムシ

発生現況：平年並

ほ場調査：平年並 発生ほ場率 1.2% (平年 1.5%)、虫数 0.0 頭/25 株 (平年 0.0 頭/25 株)

今後の予想：平年並

予想の根拠：現況発生量(±)、気温は高い(+)

備考：畦畔付近で発生が多いため、畦畔付近を中心に防除を行う。

○斑点米カメムシ類

発生現況：少

雑草地 20 回すくい取り：少 57.4 頭（平成 142.3 頭）

主要種：クモヘリカメムシ 5.3 頭（平成 12.6 頭：やや少）、アカスジカスミカメ 32.6 頭（平成 107.5 頭：少）、ホソハリカメムシ 12.3 頭（平成 8.7 頭：やや多）

予察灯誘殺数（6 月 11 日～7 月 10 日、県内 3 か所 5 種合計）：少 230 頭（平成 1836.9 頭）

内訳：クモヘリカメムシ 7 頭（平成 17.4 頭：平成並）、アカヒゲホソミドリカスミカメ 33 頭（平成 257.3 頭：少）、アカスジカスミカメ 183 頭（平成 1524.2 頭：少）、ミナミアオカメムシ 7 頭（平成 16.0 頭：平成並）、イネカメムシ 0 頭（平成 22.0 頭：平成並）

今後の予想：やや少

予想の根拠：現況発生量（－）、気温は高い（＋）

備考：出穂 2 週間前までに草刈りを実施する。

【大豆】

○ハスモンヨトウ

発生現況：やや多

フェロモントラップ誘殺数（6 月 11 日～7 月 10 日、県内 5 か所合計）：やや多 2,580 頭（平成 2,392 頭）

今後の予想：やや多

予想の根拠：現況発生量（＋）、気温は高い、降水量はほぼ平成並（＋）

○吸実性カメムシ類

発生現況：平成並

予察灯誘殺数（6 月 11 日～7 月 10 日、県内 3 か所 3 種合計）：平成並 17 頭（平成 44.6 頭）

内訳：イチモンジカメムシ 10 頭（平成 6.6 頭：やや多）、アオクサカメムシ 0 頭（平成 22.0 頭：少）、ミナミアオカメムシ 7 頭（平成 16.0 頭：平成並）

今後の予想：平成並

予想の根拠：現況発生量（±）、気温は高い（＋）

【果樹全般】

○カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）

発生現況：やや多

予察灯誘殺数（6 月 11 日～7 月 10 日、県内 4 か所合計）：やや多 800 頭（平成 405 頭）

チャバネアオカメムシフェロモントラップ誘殺数（6 月 11 日～7 月 10 日、県内 3 か所合計）：やや多 6,476 頭（平成 5,381 頭）

今後の予想：やや多

予想の根拠：現況発生量（＋）、気温は高い（＋）

令和8年4月30日付け令和8年度農作物病害虫発生予察注意報第1号を参照

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22328.html>